

じゅしゅう

浄土真宗ってどんな教え?

当山のホームページの中で「住職のつぶやき」と題して、浄土真宗のみ教えを解説しているコーナーがあることをご存じでしょうか。現在掲載のものはお釈迦さまの出世本懐という、この世にお出ましくくださった意味をお伝えしております。

今月号のじゅしゅうでは、その続きということで、「無条件の教え」他方本願」のお話しを書かせていただきます。

どんないのちも平等に、もろすことなく救いたいと誓われた阿弥陀如来。どんな願いを持たれたのか、もう少し詳しくお伝えしたいと思います。

お釈迦さまは阿弥陀如来の教えの内容を「すべての人を必ず救う」ものだと言われました。それは阿弥陀如来の願い、本願と呼ばれているものです。阿弥陀如来という仏さまはどのような方か、物語を一つ紹介させていただきます。

『仏説無量寿経』には、次のように説かれています。昔、あるところに一人の国王がいました。国王は、世自在王仏の説法を聞いて感動し、自らも悟りを目指したいと思ひ、国王の位を棄て出家して、一人の修行者(菩薩)となりました。名を法蔵菩薩と言いました。そして、五劫という長い時間思惟して、四十八の請願(四十八願)を建てました。それは、いずれも「私が仏になるとき、〇〇できない

第51号
(通算391号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

- ・7月19日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆ヨガマットの無料レンタルもあります。お友だちをお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加ください。

ようなら私は悟りを開きません。」というものです。中でも十八番目の願い(第十八願)には、「すべての人を必ず救う」という万人の救済が誓われているので根本的な願いということになります。

「本願」と呼ばれています。その後、法蔵菩薩は兆載永劫という長い間修行をして、ついに阿弥陀如来という仏になりました。それは、今からおよそ十劫も昔のことです。

これは『法蔵説話』と呼ばれているものですが、阿弥陀如来は仏になる前(悟られる前)にすべての人を必ず救いたいという願いを持たれたのです。そして、どうすれば誰一人もろすことなく救い取れるのか長い時間をかけて考えられました。その中身は次にお話し

する「他力」ということですが、ここでのポイントは願いを持たただけではなく、その願いはもう叶っているということなんです。本願はもう既に成就されているということ。なぜなら、法蔵菩薩は阿弥陀如来になられているからです。

私たちの前におられる浄土真宗のご本尊は、阿弥陀如来です。お木像のご本尊であればわかりやすいですが、立つておられるその阿弥陀如来は少し前に傾いています。その理由は願いを持たただけでなく、またその願いが成就したということだけでなく、現に今私たちが救うはたらきとして届いているということを表しているのです。はたらきとしての力を持つていますので、これを「本願力」

煩悩の濁水へたてなし

功徳の宝海みちちて

むなしくすぐるひとぞなき

本願力にあひぬれば

親鸞聖人『高僧和讃』



仏教語辞典



栄養ドリンク

お参りに行った先のお婆ちゃんからもらうことが多い。「お盆は忙しいだろうから」と渡される栄養ドリンクは、成分表以上の栄養があるように感じる。お参り以外の用事で行くとき、箱ごといただけるときもある。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

とも言います。

さて、一般的には良いおこないをすれば良い結果が生まれると思いますし、悪いことをすれば悪い結果が起るだけでなく罰が当たるとまで言われています。ですので、悟りを得たいという結果のためには、自らを厳しく見つめ、自分が変わることで、苦しみを生きていく方法を見つけ出すというのが、通常の仏教観かと思えます。

とも思わない人は、すくいからもれてしまうということになります。

そうはさせたくないと思われたのが阿弥陀如来という仏さまでした。全てのいのちを救い取るにはどんな簡単な条件でも付けてはいけません。「あなたが変わるのではなく、そのままのあなたをすくいとれるよう、私が変わります。」と誓い、私にはたらいておられます。もちろん悟りに向かう自らのおこないを否定されていくわけではありません。けれど自分をみつめて分かるように、どうしても自らの

おこないには限界があり、当て頼りにすることはできません。そんな私のことを先に承知してください。阿弥陀さまは、すべてを仕上げてあなたのためにはたらいているから、私に任せてほしいとのこと。そのはたらきを受け入れ、お任せをすることを「他力」といいます。

よく「他力本願で勝つたようなものだ」と自分で努力してつかみ取らなければいけないというような意味で「他力本願」という言葉を使われているかもしれませんが、この言葉は自分で何もせず他に頼る生き方な

行事案内

日時・七月十六日(日) 午前十時〜午後四時
行事・浄覚寺ごとも会夏のことい
場所・長原浄覚寺 詳細は別紙にて
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

8月

日時・八月十五日(火) 十四時より
行事・孟蘭盆会 並びに門信徒総追悼法要
法話・花岡静人先生(奈良)
場所・浄覚寺本堂
(YouTubeでの同時生配信を予定しております)

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。物事の決断にはタイミングが必要ですが、その決断は、決めて動いてみないと良かったかどうかは分かりません。それがタイミングを逃す原因ともなっています。それでも決められないまま決断のタイミングを逃し、後悔だけが残るよりも、結果がどうあれ動いてみる方がよっぽど自分のためになると感じました。(釋法道)

のではなく、自己中心の心から離れられず真実に背いた生き方をしている私が、阿弥陀如来のはたらきに出会うことによって、自らの愚かさや気づかされるときに、少しずつではあるけ

れど、真実の生き方へと方向転換されていくという生き方を示していただいている大切な言葉であったのです。

「御文章に聞く」は
お休みさせていただきます。